

特集展示

new collection

新 収 品 お 披 露 目 展

— 令和元年度から3年度まで —



渡邊家住宅照明器具
昭和12年(1937)頃

木彫根付「蝦蟇仙人」
松田 亮長 作
江戸時代後期



芙蓉小禽図(部分)
長谷川 玉峰 筆
江戸～明治時代

2023 / 3 / 23 [木] ~ 5 / 15 [月]

大阪歴史博物館では開館以来、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としています。この基本方針に沿った資料の収集は博物館活動の根幹でもあり、当館では毎年、市民の皆様からご寄贈いただいたさまざまな資料を保管し、研究や展示等に活用を図っています。

今回の展示では、令和元年度、令和2年度、令和3年度に新たに館藏品となった数多くのご寄贈品から未公開のものを中心に、約35件をご紹介します。

火曜日休館 ※5月2日〔火〕は開館



大阪歴史博物館
Osaka Museum of History



2019

渡邊家 住宅照明器具

昭和12年(1937)頃
渡邊實氏 寄贈(令和元年度)

大阪市阿倍野区北畠にあった渡邊家住宅書斎の照明器具です。住宅の設計者である建築家・笹川慎一(1889~1937)がデザインしたもので、フレームの上下面と側面に透明ガラスとつや消しガラスが交互にはめ込まれています。透明ガラスに描かれた文様は笹川がよく用いたデザインの一つで、室内装飾・家具調度の設計を得意とした笹川の特徴がよくあらわれた作品です。

2020

芙蓉小禽図 長谷川玉峰 筆

江戸~明治時代
前田美希氏 寄贈(令和2年度)



江戸時代末期から明治時代前期にかけて活躍した画家 長谷川玉峰(1822~1879)の作品です。玉峰は写生画をもとに洒脱な表現を切り開いた四条派の画家で、本図では芙蓉の葉は輪郭線を少なくして自然な雰囲気に描き、画面上部の小鳥は一瞬の羽ばたきを的確な姿に描くなど、細やかな配慮や優れた技術が知られます。この作品は近代大阪にあった山口財閥の重役を務めた西田家に伝来しました。当時の富裕な人々の暮らしを彩った絵画を知ることができる作品です。

新収品 お披露目展



特集展示

— 令和元年度から3年度まで —

会 期：令和5年 3月23日(木)~5月15日(月)
休 館 日：火曜日 ※5月2日(火)は開館
開館時間：午前9時30分~午後5時
※入館は閉館30分前まで
会 場：大阪歴史博物館 8階 特集展示室
(常設展示場内)
展示担当：阿部文和
観 覧 料：常設展示観覧料でご覧になれます

	個人	団体
大人	600円	540円
高校生・大学生	400円	360円

※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明提示)、障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料



大阪歴史博物館
Osaka Museum of History

〒540-0008 大阪市中央区大手前 4-1-32
TEL.06-6946-5728 FAX.06-6946-2662
Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②号・⑨号出口
大阪シティバス「馬場町」バス停前

松田亮長は江戸時代後期の飛騨(岐阜県)を代表する根付師です。根付とは印籠や巾着などの提物(さげもの)の紐の先端につけて帯にとめるためのもので、今でいうストラップです。本作品は、蛙を操る仙人として知られる蝦蟇仙人を彫り上げた根付です。紐を通すための孔が開けられるなど根付としての機能を保ちながらも、不穏さや優しさといった複雑な顔貌表現をわずか数センチの世界に彫り上げる芸術性をも兼ね備えています。まさに亮長の代表作といえる一品です。

※寄贈者の渡邊正憲氏は日本根付研究会会長を歴任した根付研究の第一人者で、国内における根付文化の振興を願い、平成30年度から3ヶ年にわたり計20点の根付をご寄贈いただきました。



2021

木彫根付 が 「蝦蟇仙人」 松田亮長 作

江戸時代後期
渡邊正憲氏 寄贈(令和3年度)